

統計データを活用した地域との連携強化

現場が求める統計データ等のニーズを把握した資料の作成・提供や、関係機関への統計データを用いた分析支援の取組など、統計データを活用した地域との連携強化。

○ 施策分類

統計

○ きっかけ・背景、課題の把握

地域課題の解決に向けた1ツールとして、統計データを用いて地域農業の現状を見える化することについて、新たに配置された分析担当と地区担当との連携体制の下で、関係機関等への働きかけ等の早期の立ち上げを検討。

○ 取組の内容

統計データを用いた分析支援について、参事官室地区担当を通じて市町村やJA等関係機関へのPRを展開するとともに、大学へは統計データ活用での連携に向けた働きかけを実施。

- ・令和6年8月、山形県置賜総合支庁において、県・市町・JAの20名が参加した「地域農業を見て・知って・活かすDB」活用研修会を開催。
- ・令和6年7月、山形大学農学部において、3年生約120名に対して「施策を支える農林水産統計」をテーマに講義を実施。

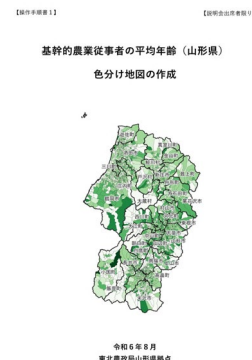
○ 効果・成果、今後の方向性

関係機関への分析支援については、研修会実施後に、参加した市町村から分析資料の個別提供依頼があるなど反応があったことを踏まえて、他地域への広がりに向けて取組を展開。

また、大学との連携については、参加した学生から統計データ分析への理解が深まったとの反応があったことから、同大学での継続と、他の大学での連携に向けた取組を展開。



山形大学農学部で農林水産統計について講義を実施



研修会の題材としたテーマの手順書

体制図

